

※ かい答は、《かい答用紙》に書きましよう。

図書委員の中西さんは、読書集会で宮沢賢治の「いちじょうの実」の一場面をしよ
うかいます。そこで、次の【物語の一部】を読んで【話し合い】をしています。

【物語の一部】

空のてっぺんなんか冷たくて冷たくて、まるでカチカチに焼き入れをしたはがねです。

そして、星がいっぱいです。けれども、東の空は、もう、やさしいききょうの花びらのようにあやしい底光りを始めました。

その明け方の空の下、昼の鳥でも行かない高いところを、するどいしものかけらが、風に流されてサラサラサラ南の方へ飛んでゆきました。

実にそのかすかな音が、おかの上の一本のいちじょうの木に聞こえるくらい、すみきった明け方です。

いちじょうの実は、みんな一度に目を覚ましました。そして、ドキッとしたのです。今日こそは、たしかに旅立ちの日でした。

みんなも前からそう思っていましたし、きのうの夕方やってきた二羽のカラスも、そう言いました。

「ぼくなんか、落ちる途中で目が回らないだろうか。」

一つの実が言いました。

「よく目をつぶっていいかいさ。」

もう一つが答えました。

「そうだ。わすれていた。ぼく、水とうに水をつめておくんだった。」

「ぼくはね、水とうの他に、はっか水を用意したよ。少しやろうか。旅へ出てあんまり心持ちの悪いときは、ちよつと飲むといいつて、おっかさんが言ったぜ。」

「なぜ、おっかさんは、ぼくにはくれないんだろう。」

「だから、ぼくがあげるよ。おっかさんを悪く思っちゃすまないよ。」

そうです。このいちじょうの木は、お母さんでした。

今年は、千人の黄金色の子どもが生まれたのです。

そして、今日こそ、子どもらが、みんないっしょに旅に立つのです。お母さんは、それをあんまり悲しんで、おうぎ形の黄金のかみの毛を、きのうまでにみんな落と
してしまいました。

※1 焼き入れ…金物を一度熱してから冷やし、かたくする方法。

※2 はがね…金物の一つ。

※3 しも…小さい氷の結しよう。 ※4 はっか…ミントの一種。

※5 おっかさん…お母さん。



【話し合い】

中西さん 物語に登場するのは、母親であるいちようの木と、その子どもたちであるいちようの（①）です。いちようの（①）は、ぎんなんという名前が付いていて、いちようの木の下でひろったり、お店にならないのを見たりしたことがある人がいるのではないのでしょうか。ですから、ぎんなんという言葉を使い、いちようの（①）の絵を見せて、みんなに分かってもらえるようにしようかしみましょう。

東野さん 場面のイメージをよりはっきりさせるために、季節や時こくのしようかをするとういと思います。季節は、ぎんなんが落ちて、「しも」がおりるところですから、（②）の終わりごろだと思います。時こくは、「星がいっぱい」だけれど、「やさしいききょうの花びらのようにあやしい東の空が底光りを始め」ているところや、「明け方」と書いているところから、夜が明ける前です。

中西さん 「やさしいききょうの花びらのよう」な空とは、どのような空のことなのでしょう。後で調べてみましょう。

大石さん 夜が明ける前の、まだ「星がいっぱい」の暗いうちに、しかも、みんな一度に子どもたちが目を覚ましたのは、なぜでしょうね。

東野さん （③）からだと思います。それは、「前からそう思って」とか、「きのうの夕方やってきた二羽のカラスも、そう言いました」という表現から想ぞうすることができます。

大石さん

A

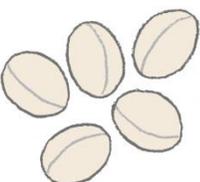
（話し合いは続く。）

一 【話し合い】の中の（①）に当てはまる言葉と、その絵の組み合わせとして、最もふさわしいものを次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましよう。

ア 葉



イ 実



ウ 葉



エ 実



二 【話し合い】の中の（②）に当てはまる、最もふさわしい季節を漢字一文字で書きましよう。

三 【話し合い】の中の() ③ () に当てはまる内ようとして、最もふさわしいものを次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 今日が、旅立ちの日になるといふことを予感よかんしていた

イ 今日、いつもより夜が明けるといふのが早くなる日だった

ウ 今日、一日じゅう母親とはなれなければならぬ

エ 今日、おそろしいことが起おこるといふ伝つたえられていた

四 大石さんは、【話し合い】の中の A で次のように発言はつげんしています。次の【大石さんの発言】の中の() () に当てはまる内ようを、【物語の一部】の中からさがして、十二文字で書きましょう。

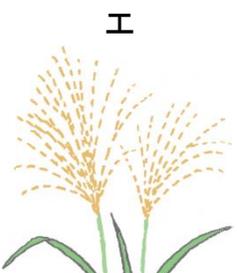
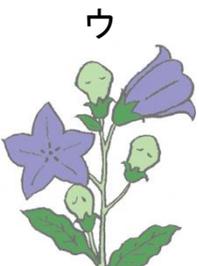
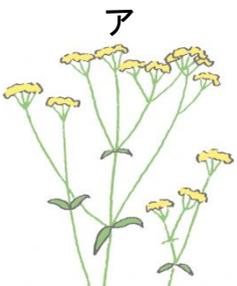
【大石さんの発言】

母親の気持ちもしょうかいしたいですね。作者さくしやは、葉っぱを「() ()」と表あらわげんしています。母親の悲しみは、人間だったら、まるでかみの毛がすべてぬけ落ちるくらい、深ふかいものだったということが分かります。



これよりあとは、時間がある人はやってみましょう。

※ 中西さんは、【話し合い】の後、ききょうの花について図書館かんとくで調べ、ききょうは、「秋の七草」だということを知りました。次のアからキまでの「秋の七草」の名前を、それぞれ書きましょう。



一 イ

二 秋

三 ア

四 おうぎ形の黄金のかみの毛

※ ア おみなえし

イ くず

ウ ききよう

エ すすき(おばな)

オ はぎ

カ なでしこ

キ ふじばかま